

平成 30 年度重点指導事項

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

「ルールに則った“正しい～”の指導・徹底」

2018 年の規則改正では、定義 38「ILLEGAL PITCH」(反則投球)から【注】が削除されましたが、規則では投球動作について 5.07 (a) (1) 及び(2)で明確に定められています。

ルールに則った“正しい投球動作”を身に付けましょう。

また、昨シーズンを振り返りますと、規則に定められた“正しい捕手の位置”や“正しい走塁”が守られなかったために、起きてほしくないプレイが発生しました。“正しい捕手の位置”や“正しい走塁”でプレイが行われていたならば防ぐことができたのではないかと考えると、まだまだ指導・徹底の継続が必要です。定められたルールに則ったプレイ、これが「フェアプレイ」です。

今年度は下記の項目に対し特段の注意を払いましょう。

記

1. 正しい投球動作 5.07 (a) (1)(2)

打者への投球に関連する動作を起こしたならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

振りかぶった腕を止めたり、上げた自由な足を止めたりしないで投球しましょう。

また、軸足を投手板に着けた状態での“汗拭き動作”等の腕の動きは投球関連動作となり、このような動作の際にはまず軸足を正しく外すようにしましょう。

2. 正しい捕手の位置 定義 17 5.02 (a) 6.02 (a) (12)

捕手はホームプレートの直後に位置しなければならない。

身体の半分以上がキャッチャースボックスから出ることのないよう注意しましょう。

また、マナーとして投球を受けた捕手が“ボール”をストライクに見せようとする意図でキャッチャーミットを動かしたり、球審のコールを待たず自分でストライクと判断して次の行動に移ろうとしたり、球審の“ボール”の宣告にあたかも不満を示すようにしばらくミットをその場におくような行為は止めましょう。

3. 正しい走塁 5.09 (a) (11)

一塁に対する守備が行われているとき、本塁一塁間の後半を走るに際して、打者走者は両足をスリーフットレーンの中もしくはスリーフットレーンのライン上に置かなければならない。

打者走者はスリーフットレーン内を走りましょう。

以上